

**三菱自動車が技術支援する「チーム三菱ラリーアート」の新型『トライトン』がアジアクロスカントリーラリー2023で総合3位入賞
—同チームより参戦の全3台が完走し、チーム賞も受賞—**

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）が技術支援する「チーム三菱ラリーアート」は、8月13日（日）～19日（土）にタイおよびラオスで開催されたアジアクロスカントリーラリー2023（以下、AXCR）に新型『トライトン』（T1仕様＝改造クロスカントリー車両）で参戦し、総走行距離 2033.42km、うち競技区間 973.98km*を走破し、前回の覇者チャヤポン・ヨーター選手（タイ）が合計タイム 12 時間 0 分 40 秒（総合首位から 14 分 18 秒差）で総合 3 位入賞を果たしました。また、今回初参戦の田口勝彦選手は総合 8 位、リファット・サンガー選手（インドネシア）は総合 32 位となっています。

さらに「チーム三菱ラリーアート」は、2 台以上のエントリーですべての車両が完走し、うち上位 2 台の合計タイムで争われる、チーム賞を受賞しました。

*実際の距離はコース変更により短縮されています



総合 3 位入賞のチャヤポン・ヨーター選手
(左)・ピーラポン・ソムバットウォン選手



新型『トライトン』（T1 仕様）

※AXCR2023 のハイライト動画はこちら：

<https://www.youtube.com/@MitsubishiMotorsTV/videos>

例年通り雨季の開催となった今年の AXCR は 13 日、タイ・パタヤの有名観光地であるウォーキングストリートでセレモニアルスタートを実施。翌 14 日のレグ 1 から 16 日のレグ 3 まではタイ国内で競技区間（スペシャルステージ＝SS）を競いました。17 日のレグ 4 では国境を越え、ラオス・チャンパーサック付近で SS を実施。その後、18 日のレグ 5 はラオス国内の高原エリアであるパクソンを走行。そして 19 日レグ 6 では SS の後、世界遺産であるブラサート・ワット・ブー内でセレモニアルゴールを迎えました。タイでは好天が続いたため、荒れた乾燥未舗装路での高速ステージが主体で、ラリーカーが走行すると細かいダストが舞い、前方車両に近づくとダストで前が見えない等、ドライバー達を悩ませました。ラオスでの後半戦はタイでは見られなかった、大きな穴が開いた道やぬかるんだ路面、川越え等、さらにドライバー達の行く手を阻む険しいコースが続きました。

AXCR で 2 連覇を狙う 101 号車チャヤポン・ヨーター選手は 2 日目の SS2 で 2 位タ

イムを記録して新型『トライトン』のパフォーマンスをアピールするとともに、安定したレース運びによって地元タイでの前半戦を総合4位で折り返すと、後半戦初日のSS4では3位タイムと気を吐き総合3位に浮上、その後も常にSS上位をキープする堅実な走り続け、新型『トライトン』を表彰台に導きました。

今回、AXCR初参戦となった112号車の田口勝彦選手は、初のクロスカントリーラリー挑戦ながらも、持ち前の正確なハンドリングとそのスピードを活かし、初日のSS1はトップタイムを記録。しかし、トラブルに見舞われたライバルに前をふさがれてペースを上げられなかったり、複雑に枝分かれするジャングルの道に悩まされたりと苦戦を強いられ、総合8位で初のAXCRへの挑戦を終えました。

106号車のリファット・サンガー選手は、初日SS1で丈の高い雑草でフロントグリルが覆われたことによる冷却系トラブルで大幅にタイムロスし、8時間のペナルティを受けて大きく後退したため、以降はチームメイトの2台をサポートする役割を担って走行。前走者が多く上位フィニッシュが困難な後方からのスタートが続く中、SS5ではトップタイムを記録するなど好走するも、総合32位となりました。

チーム三菱ラリーアート総監督、増岡浩のコメント

「雨季に関わらず雨がほとんど降らない夏の強烈な暑さに加え、近年稀にみる悪路が続く中をハイスピードで駆け抜ける過酷なコース設定でした。チーム三菱ラリーアートはフルモデルチェンジによって全方位で進化を果たした新型『トライトン』で参戦。発表したばかりの新型車であり短期間でラリーカーを製作しましたが、随所でそのパフォーマンスを発揮することができ、総合3位となりました。残念ながら2連覇はなりませんでした。ほぼ量産車と同じ仕様で、市販車の部品を使って参戦し、1台も欠くことなく3台全てが完走でき、私たちのクルマづくりの方向性は間違っていないと確信できました。また、ラリーカーとしてどう戦闘力を上げていくかという課題や、市販車にもフィードバックすべき技術的な情報も得ることができ、大変有意義な大会となりました。協賛各社様からの多大なるご支援、世界各地のファンのみなさまからの熱いご声援、本当にありがとうございました。」

AXCR2023 四輪部門 総合成績

1位	青木拓磨(トヨタ・フォーチュナー)	11時間46分22秒
2位	トゥバグス・モレンシャディ(トヨタ・フォーチュナー)	11時間50分50秒
3位	チャヤボン・ヨーター(三菱・トライトン)	12時間00分40秒
4位	ラズ・ハイマン(シーガル・シーガル)	13時間10分40秒
5位	ピティボン・プロンチュティクン(トヨタ・ハイラックスレボ)	13時間30分59秒
6位	マナ・ポーンシリチャー(トヨタ・ハイラックス)	13時間33分25秒
8位	田口勝彦(三菱・トライトン)	13時間49分31秒
32位	リファット・サンガー(三菱・トライトン)	30時間22分29秒

[AXCR スペシャルサイトでデイリーレポートを公開中]
8月13日（日）の大会初日から19日（土）の最終レグまで、デイリーレポートを
三菱自動車での AXCR スペシャルサイトで公開中。
<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/innovation/motorsports/axcr2023/>

以上